

序章 ビジョンの前提

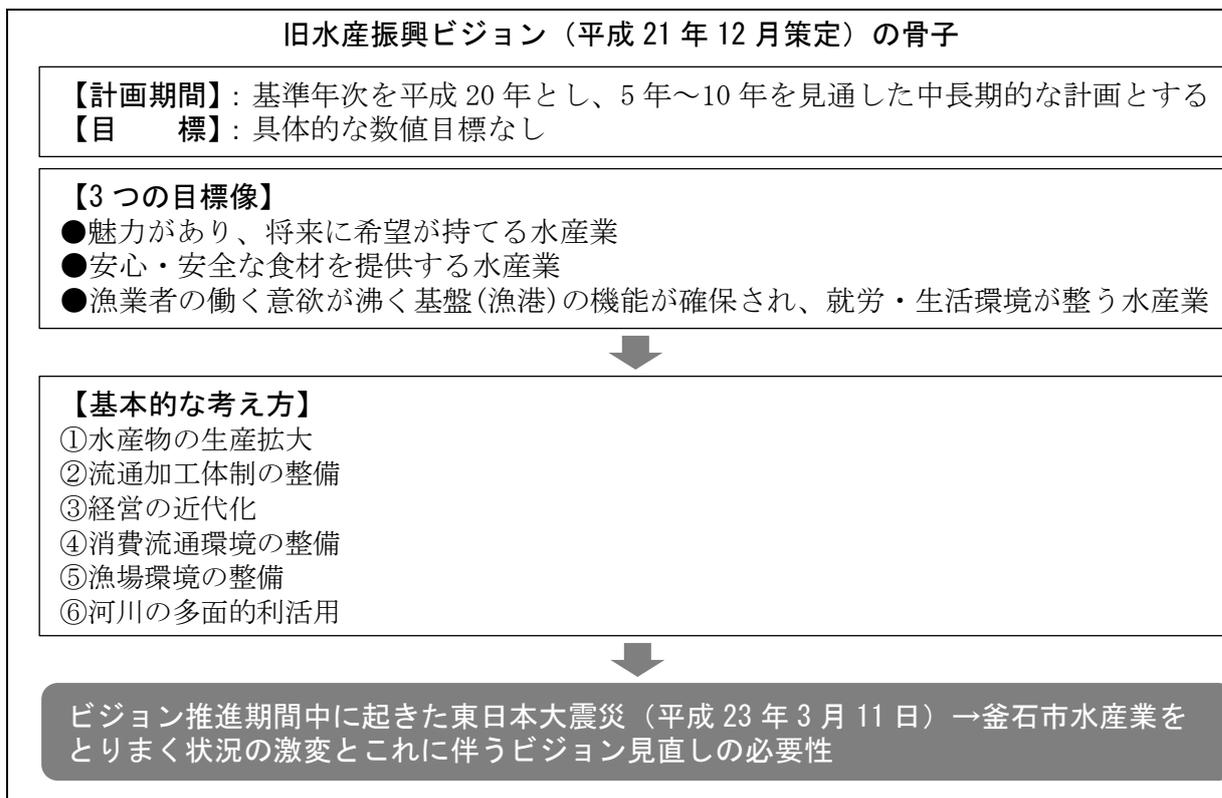
1. ビジョン策定趣旨と目的

釜石市は、基幹産業である水産業振興のために、平成 21 年に 5～10 年後を見通した中長期的計画である「旧・釜石市水産振興ビジョン」を策定しました。その実践の過程にあった平成 23 年 3 月に東日本大震災が発生し、釜石市の水産業を取り巻く状況は激変しました。震災は、それまで釜石市水産業が抱えていた問題点や課題に拍車をかける結果となると同時に、震災復興の過程で新たな可能性の芽も出始めています。

このような状況変化の中、釜石市の基幹産業である水産業の再生を通じた地域の復興と市民や来訪者が「魚のまち」を実感できるまちづくりを推進するために、「魚のまち」としての釜石市の目指すべき方向を明確化した新・釜石市水産振興ビジョンを策定し、実践していく必要があります。

2. ビジョンの背景

震災以前（平成 21 年 12 月）に策定された旧釜石市水産振興ビジョン（基準年を平成 20 年とし、目標年次は基準年の 5 年～10 年後である平成 25～30 年と設定されていました）では、①魅力があり、将来に希望が持てる水産業、②安心・安全な食材を提供する水産業、③漁業者の働く意欲が湧く基盤（漁港）の機能が確保され、就労・生活環境が整う水産業、という 3 つの目標像にそって、水産物の生産拡大、流通加工体制の整備、経営の近代化、消費流通環境の整備、漁場環境の整備、河川の多目的活用を基本的な施策の考えとしていました。



しかし、旧振興ビジョンの実践過程にあった平成 23 年 3 月に東日本大震災が発生したことから、震災後大きく変化した釜石市の水産業の課題が顕在化するとともに取り巻く状況も大きく変化してしまったことは否めません。

そこで、震災以前から継続的に存在する釜石市水産振興上の問題点・課題に加え、震災後の大きな状況の変化に対応した新たなビジョンを策定し、市全体の復興と歩調を合わせて実践していかねばなりません。

3. ビジョンの位置付け

本ビジョンは、釜石市の水産業振興の基本的な方向を示すものであり、行政施策の推進に当たり、その指標となるものです。釜石市復興まちづくり基本計画の水産業部門計画として、各種の関連計画等との調整を図りながら推進するものであり、漁業者や関係諸団体に対して理解と協力を求めながら、自助、共助、公助それぞれの的確な役割分担のもと、オール釜石水産関係セクターが協働して水産業振興を図る基本的な方向性です。

4. 計画期間

本ビジョンの計画期間は、基準年を平成 29 年度とし、平成 30～39 年度の 10 年間を計画期間とします。ただし、5 年後には計画の進捗や社会情勢を考慮し、本計画の修正、見直しを行うものとします。

基準年：平成 29 年度→計画期間：平成 30～39 年度（10 年を見据えた計画）

【計画期間設定の考え方】

釜石市水産業をとりまく状況は、震災後急激な変化の過程にあり、計画の長期的な方向性は 10 年後を見据えつつ、以下の多様な要因への早急な対応期間を考慮して、中間的目標年を、基準年の 5 年後とします。

○釜石市魚市場における水揚げ

- ・ピーク時から大きく落ち込む魚市場取扱
- ・周辺魚市場との競合
- ・魚市場買付能力の低下
- ・市場運営体制の弱体化

○漁業者と漁業生産量

- ・漁業者の高齢化による生産力低下
- ・後継者不足による漁業者減少
- ・漁業者及び生産量の減少による漁協運営基盤の弱体化

○魚のまちづくり

- ・漁港漁村の復旧
- ・水産物消費の低迷
- ・観光漁業など、新たな水産業の動きへの対応

5. ビジョン策定の体制

(1) 水産審議会の開催

本ビジョンの策定に関し、釜石市復興まちづくり基本計画や同復興整備計画との整合を図ると共に、市内水産関係者の幅広い見地から市水産業の現状分析と課題抽出及び有効な改善策を整理するため、外部有識者を含む「水産振興審議会」を設置し、ビジョン内容の策定を進めました。

(2) 主な水産関係者及び市民意向調査

釜石市の水産関係の現場で漁業、養殖業、流通・加工業及び6次産業化などの各分野で取り組んでいる関係者の中から抽出した対象者から、現場の問題と今後の水産振興への意向を聴取した内容を参考にして、ビジョン内容の策定を進めました。

(3) 市内水産関係団体の水産振興関連計画の活用

既に、市内3漁協では、漁協毎に「地域営漁計画」及び「浜の活力再生プラン」並びに市全体を対象とした「広域浜の活力再生プラン」を策定していることから、これらの諸計画もビジョンに取り込みました。

(4) 市民提言の受付

釜石市は、市の広報やホームページ等を活用し、本ビジョンの内容に関する市民からの意見や提言を求め、内容の調整を図りました。

(5) 市議会の意見・提言

本ビジョン策定の過程で、市議会に対して計画案を説明し、意見や提言を伺い、内容の調整を図りました。

6. 進行管理

釜石市は、本水産振興ビジョンと釜石市復興まちづくり基本計画や復興整備計画との間で、その計画、施策、基本事業等との間の整合を図り、施策、基本事業及び事務事業のそれぞれにおいて、成果指標の達成状況を把握するとともに、計画の有効性や効率性等の観点から評価しながら、「釜石市水産審議会」を通じて、その見直しと改良を図っていきます。

一方、本ビジョンは、関係者や組織の自助に期待する部分と、関係者や組織間の連携による取り組み、つまり共助に期待する部分が多くあります。

このことから、ビジョンの円滑な推進を図るため、必要に応じ「釜石市水産審議会」に部会等を組織し、官民一体となって、意思統一を図りながら事業の実施や評価と計画の修正・補強を行いつつ、ビジョン達成に向けて取り組みます。